

ロードウェイ マテリアル リサイクル システム コンサルティング

「適正」と「継続」を容易にするコストパフォーマンスの追求
環境にやさしい企業・地域へのサポート



自社処理によるシステムのご提案（排出事業者：一般企業、食品加工工業、家電量販店など）

企業が排出するゴミについては、ほとんどが産業廃棄物事業者による収集が主流だと思われます。しかし現在、SDGsやゼロエミッション達成などを視野に入れ、廃棄物に対する意識が高い企業が非常に増えてきており、可能な限り自社処理に転換しようという動きが強くなってきております。

- ゼロエミッションを推進する環境企業へのお手伝い
- SDGsに対応する真の適正な環境基準づくり
- 消費者及び地域社会に貢献できる企業イメージづくり
- 無公害処理による安全性の高い、高品位リサイクル処理の提案
- 省スペース・省コストによる効率の良い資源化
- 再商品化証明書によるリサイクルの流れの明確化と信頼性の維持
- 協力企業とのタイアップによる信頼性の高いフォロー体制

再生リサイクル工場の構築（中間処理会社、地域行政、市町村など）

現在、地域における処理場の建設等の中で市民より環境悪化の恐れによる反対の声や建設による財政の圧迫等が懸念されています。やはり資源化できるものは適正に資源化するというコンセプトを推進し、地域住民へのイメージアップと理解を得られる低投資型のリサイクル施設の併設又は、建設が必要とされています。ロードウェイ マテリアル リサイクル システムは環境にやさしいリサイクルプラントを提案し、地域社会の生活環境を応援しています。

- 再生リサイクル工場の提供による設備投資の削減と地域社会の資源化促進
- 廃棄物の高品位リサイクルによる地域住民の生活環境支援
- 地域のニーズ合った再生リサイクル工場のプランニング

株式会社ロードウェイ

製品のお求めは

廃発泡スチロール 減容・成形材料化システム
Roadway Material Recycling System

株式会社ロードウェイ
茨城県常総市古間木 1583-3

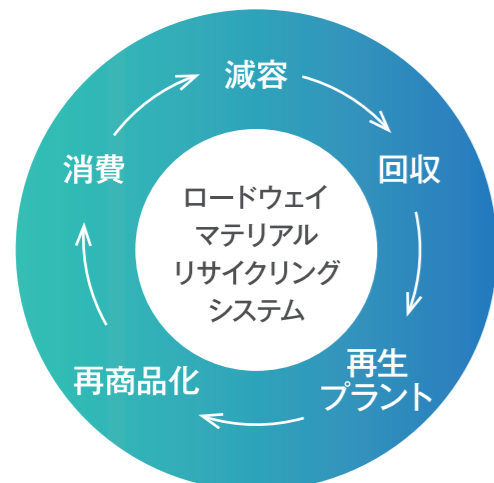
廃発泡スチロール
減容・成形材料化システム

Roadway Material Recycling System

ロードウェイ マテリアル リサイクル システム

人と環境にやさしい発泡スチロールリサイクルシステム

人と環境にやさしい「CP 溶剤」発泡スチロールを溶かす。
煙・臭気・汚水を一切出さない環境負荷の全くない「完全循環型リサイクル」を実現



完全循環型リサイクル

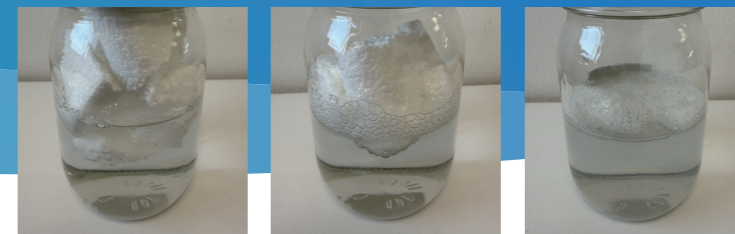
廃発泡スチロールを CP 溶剤で溶かし原料化、再生工場
新しいプラスチック製品に生まれ変わり消費者の元へ。

完全循環型リサイクルは
単にゴミを回収・再生・再商品化するだけでなく、
地域に眠る資源の使用の最小化も実現する、地域にやさしい
リサイクルです。

「CP 溶剤」を使うことにより、火や水を使わずに、常温処理で
廃発泡スチロールをプラスチック原料に再生します。
主原料のほか、ロードウェイ独自の技術で開発したマテリアル
リサイクル システムは、人や環境に与える影響を熟考の上
作られているため、煙・汚水などを出しません。



CP 溶剤によって発泡スチロールが溶解する様子



CP 溶剤で減容した溶解物
(ゲル状物質)

CP 溶剤によるマテリアル リサイクル システムの特徴

<ul style="list-style-type: none"> 安全な処理過程 環境悪化防止 人体への影響 	安全性に優れた「CP 溶剤」を使用するため、処理過程が非常に安全。 処理過程において周辺環境に与える負担が全くなく、環境悪化防止に大きく貢献できる。 万一、体内に取り込まれても比較的安全。
<ul style="list-style-type: none"> 品質 容易な異物除去 	熱を加えず、さらに発泡スチロールの化学分子構成を変えることなく減容するため、高品質な ポリスチレン原料にすることができる。 発泡スチロールだけを溶解させるので、固形・油などの異物除去が簡単。
<ul style="list-style-type: none"> 再製 エコ商品 省エネルギー 	原料化されたゲル状物質をリサイクルプラントにてポリスチレンチップに再製品化。 CP 溶剤自体も石油資源であるが、再生プラントにて 95% 以上回収・再生できるエコ商品。 ほぼ 100% と高いリサイクル率で再生され、省エネルギーにも優れている。
<ul style="list-style-type: none"> 低コスト 高輸送効率 	CP 溶剤は再生・再利用されているので低コストを実現。 発現場で 1/50~1/100 に減容させるので、輸送効率が非常に高い。

現在の廃発泡スチロールの主な処理方法とその問題点

ロードウェイならこれらの問題点をすべて解決します

1. 焼却

大量の CO2 の発生



2. 熱溶解



以前は汚れたままのインゴットも輸出出来たが、現在では各国受け入れを拒否
リサイクル原料にする為には「洗浄」という一手間がかかる為、コストが上がっています

3. 埋立

あと数年で許容量がいっぱいに。発泡スチロールは永遠に残ります



4. 受け入れ処分場減少

現在、焼却・埋め立てについては、産廃の発泡スチロールの受け入れが厳しくなっており、
行政の処分場については全国のほとんどが受け入れ不可となっている

CP 溶剤とは

安全性に非常に優れている脱泡収縮剤です

他社溶剤メーカーとの比較

	ロードウェイ マテリアル リサイクル システム	他社溶剤メーカー
主原料供給	米国 INVISTA 社 (旧 Du Pont 社)	
主成分	エステル系合成油	
揮発性	きわめて低い	
分類	第四類第3石油類	
ゲルの分類 (ゲル=処理後の溶解物)	非危険物	
副成ガス	なし	
引火点	100°C(ゲルの引火点: 107°C)	
発火点	370°C	
溶解比率	発泡スチロール 1kg : CP 溶剤 1.2kg ※保証値	
その他	生分解性に優れ、 自然環境下で分解が容易	
消防法	第四類第3石油類 (危険物扱い度が低い)	第四類第2 又は第1 石油類 (危険物扱い度が高い)
揮発性	ほとんど揮発しない。	揮発性あり。
臭気	若干はありますが、揮発性がない ため充満することはありません。	あり。 揮発性があるため、臭気が充満しやすい。
引火点	100°C 引火点が高く、処理作業される方への 安全性を重視して開発された溶剤です。	ほとんどが 14°C~50°C前後で、引火点が低く室内の処理 作業や保管管理等において注意が必要とされる温度です。
保管	第3石油類については、消防法により 400 リットルまで届出が必要ありません。	第2 石油類については、消防法により 200 リットル以上は届出が必要となります。
ゲルの保管及び 輸送に関して	非危険物扱い。 物流体制のネットワーク化を図り、安全 に且つすべて自社において行っている。	物流体制なし。 引き取り責任が不明瞭。
中間処理及び 許認可関係	中間処理の許認可の取得。委託 収集処理の場合でもリサイクル までの流れを明確化できる。 トータルシステムの提案により 行政よりの許認可取得が可能。	取得実績なし。 発泡スチロールを有価物扱いとしている ため、中間処理は取得せずに事業を展開。 したがって委託収集処理の場合、マニフェスト でのリサイクルの流れを明確にできない。